

カメムシ類、コブノメイガ、トビイロウンカの防除について

【カメムシ類】

5月の水稲管理情報No2で情報提供した「イネカメムシ」および「斑点米カメムシ類」については、**出穂2週間前の畦草除草(本田の飛び込み防止)**と、**基幹防除が重要です**。表1の薬剤を参考にカメムシ類の発生を確認したら防除を行いましょう。



イネカメムシ



ミナミアオカメムシ
(斑点米カメムシ類)



斑点米(被害粒)

・イネカメムシ

防除の目安: 出穂期(40~50%が出穂した時期)に防除を実施しましょう。発生が多い場所では、出穂期7日後に2回目の防除を検討しましょう。

・斑点米カメムシ類

防除の目安: 出穂後5~20日の加害により、斑点米が高率に発生するため、穂揃期から10日後に防除を実施しましょう。

表1 カメムシ類に対する薬剤

名称	希釈倍率 使用量	散布液量 (ℓ/10a)	使用 回数	使用時期
アルバリン 顆粒水溶剤	2000倍	60~150	3回	収穫7日前まで
アルバリン 粉剤DL	3kg/10a	-		収穫7日前まで
エクシード フロアブル	2000倍	60~150	3回	収穫7日前まで
エクシード 粉剤DL	3kg/10a	-		収穫7日前まで

※防除にあたってはミツバチへの影響を考慮して行いましょう。

【コブノメイガ】

成虫は窒素過多、遅植え等の葉色の濃いイネに集中して産卵し、孵化した幼虫が、イネの葉を縦につづり合わせ、葉の表面を食害します。本種による被害が問題になるのは飛来後第2世代幼虫による**出穂期前後の食害**です。

防除を行う際には、下図のコブノメイガ発生予想パターンと表2の薬剤を参考に、**第2世代幼虫の時期**を中心に防除を実施しましょう。



- (1) 防除適期は発蛾最盛期から1週間後である。
- (2) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出した。
- 発育零点(卵13.0℃、幼虫12.5℃、蛹14.2℃)、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度(卵50.0℃、幼虫250.0℃、蛹90.0℃)
- (3) 気温はアメダス大宰府を使用した。(7月10日までは実測値、以降は平年値)

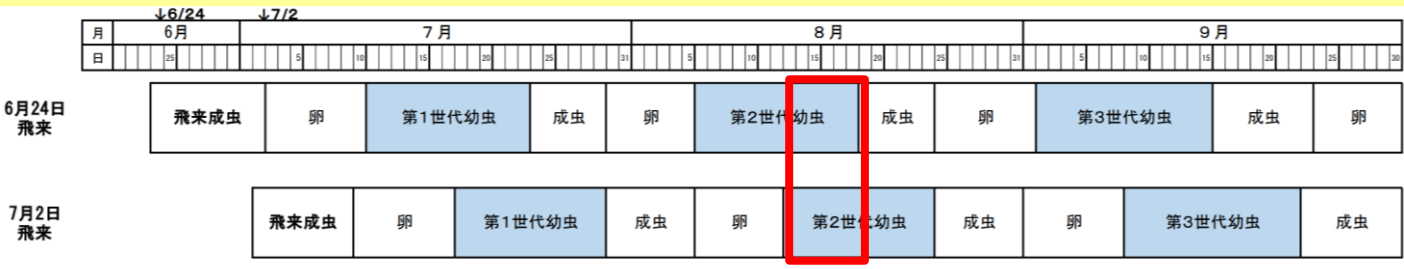
図1 コブノメイガ発生予想パターン図
(令和6年7月10日福岡県病害虫防除所作成)

表2 コブノメイガに対する薬剤例

名称	使用量	散布液量((ℓ/10a)	使用回数	使用時期
トレボンEW	1000倍	60～150L/10a	3回	収穫14日前まで

【トビロウカ】

ほ場により発生程度が異なります。効果的な防除を行うためにも、田回りを行い、図2のトビロウカ発生予報パターン図を参考に**第2世代幼虫の時期**を中心に防除を実施しましょう。防除薬剤については、水稻暦や注文書を参考にしてください。



- 注 (1) 発育零点12.0℃、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度(成虫期間100.0℃・卵期間109.4℃・幼虫期間189.4℃)
- (2) 気温はアメダス大宰府を使用した(7月9日まで実測値、以降は平年値)

図2 トビロウカの発生予想パターン図
(令和6年7月10日福岡県病害虫防除所作成)